

部会長便り第33号

1 直近の活動

3月3日(日) 幹事会

3月16日(土) [YES-Metals!](#)

3月17日(日) 「企業内技術士勉強会」(第13回目)思考実験2、講義「説明責任」

3月20日(火) 顧問会議(顧問+執行役)

3月23日(土) 早春見学会「貨幣博物館(貨幣の歴史金属学)その他」

3月24日(日) 金属部会定例部会(3月分)

3月28日(木) APECIソングニア審査委員会

3月28日(木) 四部会連絡会

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

4月7日(日) 幹事会

4月13日(土) [YES-Metals!](#)

4月14日(日) 「企業内技術士勉強会」(第14回目)メンバー講演、講義「市場責任」

4月20日(土) 中国方面面談

4月21日(日) 中部本部交流会

4月28日(日) 金属部会定例部会(4月分)

3 部会四方山

▶「3月は去る」で、あっというまに3月は終わった。部会活動もなんやら色々あって忙しい。▶部会長にとってこの時期は最も多忙を極める。通常の行事に加えて、「年間の実績を出すべし」「**委員を選任すべし」と「打つべし・打つべし・打つべし」と事務局のべし攻撃が4月まで続く。ヨレヨレになったところで、ウイークデーの真昼間の事務局会議の案内が舞い込む。まあ、事務局はウイークデーがお仕事時間なので当たり前の招集なのだが、勤め人には辛いのが実感だ。▶部会活動なら自分たちで決められるので、土曜日や日曜日に行事を集中させられるので、全く不満はない。でも、事務局との関係は本当にエネルギーを吸い取られていく。先輩諸氏は本当にこんな仕事をよくやってこられたと毎年3月になると関心している。どれくらいしんどいかというと、確定申告よりもきつい。

▶65周年記念誌のオンライン配布はまだ続いている。お手数ですが、ここからダウンロードしてほしい。

<https://xgf.nu/eHe5o>

PW: metals65

2024年5月30日期限

感想も届き始めている。関係者が総力を挙げてつくりあげた力作なので一言いただければ励みになる。

<https://forms.office.com/r/zk0CrLcJeM>

▶幹事会で和鐵が突然、「来年の定例部会の半分は東京で行い、それはリアルのみで行う」と言い出したものだから、幹事会では騒ぎになった。正直、ハイブリッドという耳障りの良い言葉でお茶を濁す時期は過ぎた。「リアルでもZOOMでもお選びください」ではどんなに近くてもZOOMを選ぶ人が大半である。それが証拠に2月はリアルゼロ、3月の部会長を入れて5人しかリアルで集まらない。「ZOOMでこんにちは」で本当に知り合ったことになるのだろうか？もちろん、3月22日に開催した銀ブラ見学会（貨幣博物館+AIビル）では、募集人員MAXまで集まり、その後の昼食会も大賑わいだった。嫌いなわけではない。多分、定例部会でリアルで集まった時の「お得感」がないためだろう。▶ハイブリッドを主張される人はCPD講演が聞けなくなるという。それなら、CPD講演はZOOMで行い、そこからはZOOMを切って、会場に参加した人だけが体験できる交流会をしてもいいかと思う。何も、真面目に毎月、委員会報告とか決まり切った行事をするのが定例部会ではないはずだ。もちろん2ヶ月に一度の地域本部や県支部開催は続けるのだから頻度問題はないだろう。どこよりも多くの委員会報告をしているはずだ。▶CPD講演が終わったら即ZOOMを切ると、クローズドで集まったメンバーでリアル会合を満喫できる。例えば、大っぴらにできない技術士試験の解説でもいい。自分が気になる技術の議論でもいい、やってみたいのは、自分が読んでためになった技術本の交換会だ。本を後生大事に書棚に入れておくだけでなく、それを他の人に譲ると本は再び役だつ。もちろん、そのためにはその本のどこか素晴らしいか口上がいる。てな感じでやりたい。▶もちろんその場には、これから技術士になりたい人も、興味ある人など技術士以外の人の参加もOKだ。だってリアル会合は会員外もOKだ。機械振興会館で開催する回は、もちろん関東地区の講師、できれば技術士以外の講師を招く。東京サロンの定例部会を使ってもらい、当然後半は持ち寄りのお菓子を食べながら……。今は和鐵の妄想かもしれないが、来年の今頃は本当にそんな開かれた部会、技術士以外の人も参加でき、会員獲得に貢献できる関東定例部会にして行きたい。

4 和鐵管見 31

▶まずは恒例の封切り映画から2つとビデオが1つ。一つ目は3月15日公開の「デューン、砂の惑星PART2」である。「砂の惑星」は和鐵にとって因縁の仕掛かり小説である。今を去ること、半世紀ほど前、前年の入試に落ちて大学浪人をしている時のことだ。再び受験勉強をしている夏。予備校が休みの日曜日は自転車で隣の市の市立図書館に朝早くから出かけて並び、自習席を確保して勉強していた。図書館はクーラーが効き、そして何よりたくさん本がある。勉強より周囲に溢れる本に囲まれている至福の時間だ。でも、物理の問題を解かねば。▶皆さんも経験あるだろうが、試験の前日に限って小説が読みたくなる。「うわあ、時間がなくなる」と焦りながら武者小路実篤やトルストイや小松左京の文庫本から目が離せない。市立図書館でも同じだった。次から次に小説を読み続け、物理の問題集が全然進まない。そしてある日、和鐵はとある本を手にとった時に、とうとうその悪習に自ら終止符を打った。何かと言えば「この本さえ読まなければ、来年の受験は合格する」という願掛けであった。その本が、まさしくフランク・ハーバートの「砂の惑星」だった。▶あれから半世紀。もう願掛け期間がとっくに終わっているが、未だに「砂の惑星」だけは読めない。大学受験合格と交換してしまった「砂の惑星を読まない」誓いは未

だに続いている。とはいうものの、内容には興味がある。誓いは「本を読まない」なので、映画はOKだ。デイヴィッド・リンチ監督の1984年も何回も見た。そしてドゥニ・ヴィルヌーヴ監督の2021年のPART1、そして今回みた3時間のPATR2だ。内容については語らないが、半世紀の願掛けの中で、小説内容は和鐵一部になってしまっている。何度も手に取りかけたこともあるが、まだ読んでいない。一生読まないかもしれないし、死期が近づいたら読むかもしれない。▶二つ目は、月末の3月29日の封切り日に海老名のイオンシネマ最終回に見に行った「オッペンハイマー」だ。これはものすごい映画だ。原爆の父であるオッペンハイマーの栄光と失脚の物語である。伊達に今年のアカデミー賞を7部門受賞したわけではない。しかし、3時間足らずの中にその物語を詰め込むには、あまりにも膨大な情報量であった。マンハッタン計画のリーダーとなった彼は原爆の初爆発をポツダム会議の直前に成功させる。あまりの強大な爆発力を目の当たりにし、それまで夢中で開発してきた原爆に倫理的な負い目を感じ始める。「ジャパン、ヒロシマ、ナガサキ」が何度も登場する。これは米国人のみた、米国人好みの映画だった。一躍科学の英雄になったオッペンハイマーは大統領と面会し、数十万人を殺戮した兵器の開発に悔悟の念を示す。しかしトルーマン大統領は、「結果の責任を君に求めるものはいない。その歴史的責任は全て私に降りかかってくる」とハンカチを取り出しオッペンハイマーに差し出す。出ていく彼にトルーマンは「あんな泣き虫をもう二度と私の前に連れてくるな」と命じる。しかし、泣いているのは大統領の方に見えた。最後のシーンも印象的だった。原爆開発に取り掛かる直前に彼が会いに行ったアインシュタインは別れ際に、「自分の成したことへの報いを受けてはじめて安らぎを得る。私は祖国を失った。君は・・・」米国人好みの映画だった。爆発シーンがアラモアナの実験の時しか出てこなかったのは救いだった。▶これ以外には、Amazonプライムで無料公開された「トップガン・マーベリック」は今月みはじめて、すでに15回は見た。ウイークデーは自宅に帰ってからみる。東京に行く時はipadmini6で見る。ついでに、35年前の「トップガン」も見るものだから、3月の夜に布団に転がってからは「トップガン漬け」である。「トップガン」は和鐵の行動パターンに大いに影響してきた。会社勤めで品質管理をやっていた時代、現場の最前線で活躍する優れたスキルを持つ人が各製鉄所にいた。和鐵は、本社組織に働きかけ、各製鉄所で活躍している最優秀者を1名ずつ集め、東京本社で1週間缶詰で徹底的にしごき上げ、さらなる高みを目指す研修を毎年開催していた。様々な分野の教官が各所優秀者をさらに磨き上げる活動を「品質トップガン」と称していた。教官も生徒が現場現役の最優秀層なので気を許すと、すぐに逆襲がくる、教官にも良い刺激になっていた。そのトップガン育成チームを和鐵が率いていた。効果があったのか、時間の無駄遣いだったのかをわからないが面白かったことは間違いない。▶マーベリックも35年ぶりにトップガンに戻ってきた。はまらないわけではない。同じテイストの映画は「ロッキー・ザ・ファイナル」だ。でも「年寄りが頑張っちゃう映画ばかり見ているのは、年を取った証拠」と言われたいようにしたい。